



近森会グループ

発行 ● 2009年12月25日

びるっば

1
Vol.282

www.chikamori.com 〒780-8522 高知市大川筋一丁目1-16 tel.088-822-5231 fax.088-872-3059 発行者●近森正幸/事務局●川添昇

年頭所感

常に時代のニーズに応えられる病院として



近森会グループ理事長 近森 正幸

高齢社会の到来による社会変化

いま、わたしたちの周りでは、高齢社会の到来によって、これまでにない大きな社会変動が起こっています。医療の面では、長年の低医療費政策によって地域医療は崩壊の危機にあります。急性期医療においてもDPCによる一日包括払いが主流となり、新しい臨床研修制度のもとで地方の医師不足を招いております。経済的にはリーマンショックや構造デフレにより国の税収も減少、失業者も急増しており、日本の行く末に暗雲が立ちこめております。

社会の変化に対応するために

こうした社会の大きな変化にもかかわらず、日本の医療界、とくに補助金に支えられた国公立病院を中心として、自らを変えられなかったことが、現在の医療崩壊の大きな要因になっているのではないのでしょうか。幸い近森会グループでは、スタッフみんなが患者さんにとっていい医療をしようとして、近森という場に集まり「病気を早く治し、早く自宅に帰っていただく」という地域の病院の役割をしっかりと分かってきております。

病院は医療サービス業であり「医療は人」だといえます。病院らしい病院としてあり続けるためには、目標に向かって組織がスルーに連携しあって有機的に動けなければなりません。「マンパワーを増やし、研修で質を上げ、やる気をもってもらう」ことが大切で、長年にわたり私たちはそうした努力を積み重ねてまいりました。医師や職員、病床などの医療資源を集中させ、病院機能を絞り込んで地域医療連携を推進してきましたし、医師、看護師をはじめスタッフの専門性を高め、全国でもトップレベルのチーム医療を展開してまいりました。

自己変革が実を結びはじめる

この四半世紀、絶え間ない自己変革を続けて病院の在り方を変え、スタッフの構成を変え、医療の仕組みを変えてきました。こうした努力が日本の医療をよりよくするために反映されております。過去には近森リハビリテーション病院の実践が回復期リハビリテーション病棟の診療報酬実現に活かされましたし、今年の中医協では、私たちが提案した急性期医療における栄養サポートチームなどの病棟における情報共有型チーム医療が脚光を浴びております。お

そらく数年先には、総合心療センターの精神科医療の実践が従来の収容型精神科医療から在宅への展開のモデルとして取り上げられると考えております。

最近の近森会グループをみましても、地域の医療ニーズに応えられるよう、病院の自己変革を続けてきた努力が、昨年から今年にかけて大きく実を結びはじめています。昨年7月には社会福祉法人ファミーユ高知が高知県からの移管を受けて、県内唯一の身体障害者、入所更正、授産施設として、春野の地に高知ハビリテーリングセンターとして完成し本格的に稼働しはじめました。

また同7月には高知DMAT協定の調印式が高知県庁で行われ、従来から行ってきた災害医療に対するこれまでの取り組みを県に認めていただきました。それを踏まえ9月1日には高知県より従来の県レベルの災害支援病院から、国レベルの災害拠点病院の指定を受けることができました。

10月1日には近森会健康保険組合が認可され、高知県内では近森会を含めわずか4企業しかなく、しかも30年振りに直接の監督官庁である厚労省から認可を受けたことは、高知県の事業体として運営が健全で信頼に足ると認められたことであり、たいへん名誉なことでもあります。

これからの四半世紀に向かって

現在、そして将来にわたって病院らしい病院としてあり続けるためには、さらなる組織変革の必要性があります。民間の医療法人から、より公的な社会医療法人に変わるべく高知県に申請しており、今年1月1日付で認可していただけることになりました。

新しい「社会医療法人近森会」の開設をふまえ、今年2月から5カ年にわたる壮大なプロジェクトがスタートします。ヘリポートを有する新本館（仮称）や陸橋で結ばれた外来センター（仮称）、さらに北館の仮設病棟や管理棟、立体駐車場など、近森病院の全面的な建て替えを行ってまいります。これにより、高機能な急性期病院として救命救急、災害医療が行える病院として、これからの時代の荒波に耐えられる病院として、近森会グループは大きく変わろうとしております。

公的な社会医療法人になっても民間病院の活力を忘れることなく、常に時代のニーズを捉え、地域になくはならない病院としてあり続けたいと願っております。

デンマーク 地域リハケアセミナー

近森リハビリテーション病院リハビリテーション科
科長 和田 恵美子



◀藤田団長と

▲デンマーク国旗
◀グループホームの食堂

2009年9月にデンマーク地域リハセミナーに参加してきました。日本では福祉の国として有名ですが、インスリンや風力発電などいわゆるすま産業で国民総生産は9位（日本は15位）、幸福度が世界1位（同90位）の国です。

ケア三原則①自己決定（いつまでも自分らしく生きる）②継続性（住み慣れた地域でいつまでも）③残存機能の活用、が徹底されていました。

高齢者の平均入院期間が14日、自宅の工事は最長でも5日で完了（某K市では介護保険の結果が出るまで2ヶ月かかったというのに！）。退院当初は巡回ヘルパーが1日8回見に来てくれたり、訪問リハが毎日2時間利用できたりと、必要なときに必要なだけ無料でサービスを受けることができます。ただし滞在型のヘルパーをなくしすべて巡回型に移行するなど「限りある資源とお金をどう配分するのか」が全ての基本でした。あくまでも利用者の希望でなく、必要性を専門職が判断していました。

市が出そうと病院が出そうと、すべて「税金！」というコスト意識がスタッフにも利用者にもありました。物的資源のない人口551万人の小さな国なので、人的資源を大事にしようとして教育も無料利用者だけでなく介護者にもやさしいケアをおこない、2ヶ月のバケーションで燃え尽き症候群を防いでいます。

最終日、エルドラライセンという高齢者の組織（全国民の1割が加入している）も見学したのですが、「受身でなく積極的に政治に働きかけて自分たちが望む福祉サービスを作り上げているんだ！」と胸をはっていわれました。

医療は日本のほうが進んでいる印象でしたが、自己決定やコスト意識にさええられた福祉サービスはまったく違う次元のものでした。

ヨーロッパ 集中治療学会年次集会

近森病院麻酔科 谷 真規子

▼ウィーンの国際原子力機関（IAEA）の前で



▲国連都市内のオーストリアセンターにて、プレゼンテーションする谷先生
◀ウィーン中心部ホーフブルク王宮近くのブルク庭園に建つモーツァルト像

10月中旬、オーストリアのウィーンで開催されたヨーロッパ集中治療学会で、発表する機会を頂戴しました。会場はウィーン市街から地下鉄で10分程度郊外へ離れた国際研究都市内で、国連や国際原子力機関（IAEA）のビルがすぐ横にあり、「世界」の存在を身近に感じさせられる場所でした。

私の発表は開心術後の乳酸値の推移に関して検討したもので、心臓血管外科や当科の先生方のご指導を賜りながらしばらく取り組んできた内容でした。お蔭様で発表はつがなく終わることができたと思います。

今回の学会で印象的であったことが二つあります。まず、全ての演題のスライドを学会場に設置されているパソコンから閲覧できたことです。たいていは発表が行われている場に行かなければ、抄録集に記載されている以上の内容を知ることはできませんが、今回はパソコンの前に座るだけでいくつもの演題の詳細を自由に見ることができました。ただしそのために、演者の私たちには2週間前までにスライドを完成させて登録しておくという課題が課せられたのですが。

次に、ヨーロッパやアジアなど英語を母国語としない国からの演題が多くあったことです。第二言語として話されている英語に多く接するなかで、「お国訛り」が強くて聞き取り、内容が伴っていれば適切に伝わるということを実感しました。英語が得意でない私は、語学に対する自分の努力不足を再認識しましたが、同時に「英語力に過度に拘らないで」情報を発信していく必要性も感じました。

最後になりましたが、今回の発表に際しましてご指導いただきました方々、長期の出張にもかかわらず快く送り出してくださった関係部署の方々にお礼申し上げます。

1月の歳時記

薺は春の七草のひとつです。「撫菜（なでな）」＝なでたいほどかわいい菜の意から変化したとも、夏に枯れて無くなることから「夏無（なつな）」、これが変化したともいわれています。中国では止血剤、ヨーロッパでは痛

なぜな
薺

診療支援部企画情報室
新居見 温子

風、赤痢等の薬として使われていたとか……。

果実が三味線の撥に似ていて振ると音がするので、「ペンペンサ」とも呼ばれています。



画●総務課
公文 幸子





第3回心臓血管ウェットラボ

心臓血管外科科長 池淵 正彦
急性期 CE チーム主任 長尾 進一郎

「これが心臓!!」、教科書では得られない経験、 「心臓が見える、触れる」大きな意義

「ウェットラボ」これは無菌ブタの心臓を用いて、濡れた状態（ウェット）でその解剖や治療法を実習する、より実践に近いスタイルの勉強会です。

2年前の第2回心臓ウェットラボでも大反響を呼び、また、そのとき参加出来なかった方からも「次は是非参加したい」とのお声をたくさん頂きました。そこで、心臓血管外科入江部長の呼びかけにより11月7日（土）に、第60回地域医療講演会実習編と銘打って第3回目を企画しました。

「常に時代の流れに沿った知識を得る」をコンセプトに、今回は新たに心房中隔欠損症（ASD）のカテーテル治療であるアンブラッターと大動脈瘤ステントグラフトを追加し、心臓ならびに血管疾患のウェットラボとして、さらに一歩進んだ実習会となりました。

院外からは高知大学、幡多けんみん病院、高知医療センター、高知赤十字病院、土佐市民病院、くぼかわ病院、JA高知病院、安芸病院、細木病院、ネオリゾートちひろ病院、岡村病院、松本医院、はまうづ医院、広島市民病院、岡山の榊原病院などの多くの施設から71名が参加して下さい、医師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、管理栄養士、理学療法士など、多職種、総勢196名の、院内開催としては他に類を見ない大規模な勉強会となりました。

内容は心臓解剖、心臓病理、PTCAやステントといったカテーテル治療、刺激伝導系アブレーション、冠動脈バイパス、人工弁置換術、ASDカテーテル治療や大動脈ステントグラフト、心エコー、IABP、人工心肺装置、冠動脈CTのデモなどで、テーマ別に分かれたテーブルをローテーションするという方式で行いました。

解剖では無菌ブタの心臓を手にとり、切り開いて参加者全員がその構造を直に確認しました。カテーテル治療のブースでは実際のカテーテルを挿入し、心臓弁手術のデモでは詳細な説明をしながら本物の人工弁を実際に移植



▲総勢約二百名の熱気で会場のボルテージも急上昇!



よし！うまく塞がった

▲透視下で行うASDカテーテル治療を直視下で実演!



そもそも心臓という臓器はですね……

▲熱意のこもった病理のご指導をいただきました



そう！それが左心室!

▲医学生時代以来の解剖実習で大盛り上がり!



▲冠動脈CTの講義



どこがLADかな～

▲冠動脈ステントのデモ
▲本物の人工弁に興味津々!



へ～人工弁ってこうなるんだ

しました。冠動脈バイパスのブースでは、医師以外の参加者にも実際の血管を縫ってもらったりして、ただ見て回るだけでなく、直接参加型の勉強会となるよう、楽しく体験してもらえるように努めました。昼食後には歯科衛生士さんによる歯磨き講座も用意しました。

当日は活気あふれる会となり、笑いもあるなかでみな真剣そのものであり、また、大規模でありながらスムー

ズな進行であったことを、インストラクターやスタッフ、参加者のみなさんに感謝したいと思います。巷で騒がれている『医療崩壊』なんてなんのこと？地域連携病院として、日々の臨床活動だけでなく、こうした番外編でも多施設の連携、チームワークを発展させ、多角的に、仲良く、楽しく、高知県の医療を盛り立てていければ幸いです。みなさん、本当にありがとうございました。

2009年度インフルエンザへの対応

ワクチンを中心に

近森病院副院長／近森会グループ感染対策委員会委員長

北村 龍彦



今回は、近森病院のワクチンプログラムを中心に振り返ってみます。

インフルエンザワクチン接種の目的は、感染防止でなく重症化や死亡率の低減であります。2009年度は、季節性と新型の2種類のワクチンの対応が必要となり、混乱が生じました。厚生労働省の管理下で検討された、ワクチンの情報不足や接種回数の方針変更、また医療機関への時間的余裕のない通知、大量接種の対応など枚挙すればき

りがありません。

医学的に重要な課題は接種の可否を含めて、WHO（世界保健機構）や世界各国でその都度、議論され、情報共有し現在にいたっています。

近森病院でも患者さんや多くのスタッフの協力のもと、表のようワクチンプログラムを実施してきました。この結果、12月7日の基礎疾患を持つ優先度の高い患者向け新型ワクチン接種の後には、インフルエンザやワクチン



ワクチン接種風景

に関する問い合わせの電話も激減しました。新型への不安やワクチン接種に対する関心の高さを示していたと考えます。

このたびの新型インフルエンザの発生と対応を振り返ると、国民にとってはワクチン接種の重要性や、すべての感染予防の基本である手洗いやうがいなどの、標準予防策や咳エチケットという公衆衛生の習慣が再認識され、実践されたことは意義深いと考えられます。

患者さん向け新型ワクチン接種集計

2009/12/22 現在

受付締め切り	集団接種	予約受け	実施	キャンセル	未来院	日変更	備考
2009/11/2迄	11月4日～	76	66	9	0	1	11月4日～16日
2009/11/5迄	11月16日	129	115	7	2	1	11月16日～12月1日
2009/11/25迄	12月7日	352	283	31	12	18	
2009/12/9迄	12月21日	128	108	13	2	8	12月14日～22日
12月9日～22日現在		51					
合計		736	572	60	16	28	

新型インフルエンザの発生件数は第48週（11月23日から1週間）をピークに減少しております。しかし、季節性や変異したインフルエンザの流行が待ち受け

ているかもしれませんので、日頃の衛生管理に気をつけて過ごしていきましょう。

リレーエッセイ

フェイクジャズ・・・？

近森病院新館3階東病棟

中平 夏子



リレーエッセイは毎月楽しみにしていたのですが、勤続8年目、まさか自分の番がやってくるとは……。何を書こうか迷っていると「なんじゃちゃまん。あんたの好きなこと、はまっちゅうことでかまんき」と上司に言われ……。

とりあえず興味のあることについて書きます。みなさんは趣味で習い事か、社会人サークルなどに入ってますか？私は音楽が好きで知人の紹介で現在はジャズのビッグバンドに所属しています。最初は怖そうなおじさま達にかこまれ、音程が合わない、音を間違うと

怒鳴られ毎週冷や汗をかきながら合奏に参加していましたが、今ではその緊張感にもなれ、みんなと楽しく演奏しています。

メンバーは多分20人くらいで、10代から50代、職業は会社員、自営業、学校の先生、学生などさまざま音楽をやってなければ出会わなかったような方達です。そんな方達と一緒に過ごす時間はとても楽しいものです。

いつまで続けられるかわかりませんが、仕事もプライベートも自分のやりたいことは精一杯続けていきたいですね。ただ難点は練習も本番もほとんどが安芸方面ばかりで、とにかく遠いということで、ガソリン代だけはかかる今日このごろです。

第16回近森会グループ
クリスマスコンサート

高知コーラス合笑団によるコンサートが12月12日（土）に近森病院をはじめ近森リハビリテーション病院、オルソリハビリテーション病院、第二分院で行われました。



▲合笑団の歌声にみんな感動しました

看護部 **キラリと光る看護 part2**

チームで育てる風土を大切に

近森病院本院看護部長 久保田 聡美



平成 21 年の忘年会で恒例の MVP 表彰は、「チームの受賞が増えたなあ…これも近森らしいな」と思いながら観ていました。看護が関わる MVP はすべてチームといっても過言ではないかもしれませんが。そうした MVP 受賞が近づくと必ずといっていいほど相談されます。「私ひとりがもらうのはおかしい、受賞は辞退できないだろうか?」と。そんな時は必ず「貴方は皆の代表で貰うのだから」と受賞式に参加するよう背中を押すのも恒例になってきました。

今年の受賞チームの新人看護師教育担当者チームでもそんなヒトコマがあったようです。二年連続新人看護師離職ゼロの成果とそこに至るまでの努力と苦労をねぎらった受賞でしたが、その数字への重みも感じていたのかもしれませんが。数字が結果であって目的ではありません。もちろん結果が出ると励みにはなりますが…。

新人看護師教育担当者の育成を始めて 3 年目、今年度末には 25 名の立派なチームになる予定です。初年度から関わるスタッフには今年主任になったメンバーもたくさんいます。新人を「育てる」という経験をきっかけにたくさんの方の気づきを得て「人を育てることは楽しいですね」と語ってくれたあるスタッフの言葉が思い出されます。

平成 21 年度 7 月の法改正に伴い、22 年度からは新人看護職員の臨床研修等が努力義務となります。それに向

けての準備と人材育成も計画的に進めてきました。体系的な研修プログラム

や人員配置もさることながら、チーム皆で新人を育てようという風土創りが一番の目的であり今も苦労している問題です。

新人を皆で育てることを通して自分たちも成長していくチーム、そしてそんなチームの中でキラリと光る看護を探し続けていきたいと思います。

2009 年

忘年会と MVP 賞発表

12 月 10 日ホテル日航高知旭ロイヤルでの忘年会の席上で近森会グループ及びハートセンターの MVP 賞が授与されました



▲ハートセンター MVP 賞・前列左から有光純子、梅原加奈子、中岡久与、中越千陽、友草千恵
 ◀MVP 賞個人賞・後列左から
 中間貴弘、井原則之、林悟、高橋潔、山崎正博、中列左から谷内政子、五藤綾美、片岡真知子、前列左から西川菜穂、近森幹子、武内仁美



総勢七百人を越える職員を前に挨拶する近森会グループ理事長

● お知らせ ●

- 2010 年 1 月 9 日 (土) 18:00 ~ in 高知新阪急ホテル 近森リハビリテーション病院開設 20 周年記念講演会輝生会・新誠会理事長 石川誠先生
- 1 月 16 日 (土) 9:00 ~ in コンフォートホテル 第 3 回 近森病院・高知赤十字病院合同バス大会

- 1 月 23 日 (土) 10:00 ~ 12:00 in 高知文化ホール 第 62 回地域医療講演会 医療安全セミナー テーマ 転倒を防ぐ
- 1 月 30 日 (土) 桂浜荘で 平成 21 年度日本看護管理学会例会 in 高知合宿
- ★オフィシャルカメラマンが以下の二人に決定しました。
 診療支援部山崎啓嗣、総務課柏原幹正

聴診器と私

飾りにはしません

近森病院 5 階東病棟看護師長 西内 美奈

「聴診器」と聞いて思い出すのは、地元の小さな医院のおじいちゃん先生と、パリパリののりのきいた白衣を着て真っ白いストッキングの看護師さんが来る学校検診……看護学生時代に友達に聴診器をさせ、ふざけて膜側を何度もトントン叩いて遊んでみたり……。

あれから長い年月が過ぎ、自分が聴診器を持つ職業について、しかも

今でも続けているとは想像もしていませんでした。学生時代に見た近森病院の看護師さんがテキパキかっこよくて、そんな動機で近森病院に就職し、周りが自分専用の聴診器を持っていたから慌てて購入したものの、ほぼ飾り程度だったように思います。

しかし、就職してすぐの頃に院内で企画されたフィジカルアセスメン

ト研修の中で、聴診器の正しいあて方から、何を聞くのか、それは何を意味するのか、またアセスメントの重要性を教えてもらいました。自分が学んだこと、経験したことをこれからも後輩達に伝えていきたいと思っています。



アート之力

北 泰子 きた やすこ

1954年香南市野市町まれ。高知大学特設美術・工芸科卒業。高知大学非常勤講師などを経て2003年4月から香美市立美術館（旧・土佐山田町立美術館）館長



絵の苦手な人のための絵の描き方があることをご存知ですか。松本キミ子さんが開発した「キミ子方式」といわれる絵の描き方です。赤・黄・青の三原色と白を使い、下描きをせず、一点から、となりへ、となりへと描き進めていく描画方法です。

私が初めてこの「キミ子方式」に出会ったのは二十数年前でした。ほとんど絵を描いたことのない人、絵の苦手な人、大人でも子どもでも、誰でも上手に絵が描けてしまう驚きの方法だったのです。

当時勤めていた専門学校やその後勤めることになった大学の学生さんに、このキミ子方式を取り入れた授業を行いました。その効果には目を見張るものがありました。その後、精神科の病院でリハビリのための絵画講座を担当したときの患者さんの変化には、さらに驚くものがありました。

最初は「見るだけ」と言って来られた高齢のAさんが、二度目には「少

しだけ」と言って筆を取り、数カ月後には「私も描けた！」と笑顔がでるようになり、次第に長時間集中して力強い絵が描けるようになっていき、「先生、このあいだ描いた作品が展覧会で賞を取ったんです！」とニコニコ顔で報告してくれたのでした。また、若いBさんは、絵画の講座が終わったとき、私のそばに来て「私、この病院に来て初めて笑いました。楽しかったのです」と言ってくれ、病院担当者も「彼女の笑顔を初めて見ました」と驚いていました。

絵を描く、描けることが、病気の心を癒し、生きることを楽しくさせる力を持っていることを、患者さんから教えてもらいました。

私たちはもっと「アートの持つ力」を認識し、活用していけば、より多くの人々が自分の持つ力に気づき、自信を取り戻し、より元気に楽しく生きていけるのではないのでしょうか。あなたも絵を描いてみませんか。また、当館にもお越しください。

私の趣味 アイスホッケー

消化器内科科長 近森 正康

アイスホッケーって知っていますか。氷上の格闘技といわれ、アイスリンクの上で小さなパックを奪い合って相手のゴールに叩き込むスポーツです。大学在学中、あれほど夢中にやっていた割に卒業と同時にぱったり止めていました。

その後、スケート靴を一回も履かない生活で、時々ふとアイスホッケーを思い出す程度でした。ところが今年の春、以前お世話になったことのある「高知アイスホッケーチーム」の監督に、偶然近



森病院の玄関でぱったり出会って、練習に誘われました。

10年ぶりにリンクに上がりホッケーをする事になりました。最初は防具を着ただけで息が上がり、変な汗をかいて氷上でもまともに

立っていただけでしたが、最近やっとホッケーの動きができるぐらいまで回復してきました。

冷たいリンクの上でかく大量の汗は他のスポーツでは味わえない爽快感があり最高です。

☆高知チームは常時部員を募集しています。興味ある方はぜひ一緒にやりましょう！

急性期リハビリテーション・シリーズ その6

日常生活へのアプローチ

近森病院作業療法科主任 細川 忠



▶食事は日常生活の自立で大きな比重を占める。自分で調理できるように、作業療法士が見守るそばで訓練しているところ。▼本日はこんな献立でした！

日常生活は、主に食事・整容・排泄・更衣・入浴の5項目に大きく分類されます。急性期での日常生活の動作は、あまり馴染みがなく急性期リハの中心は、廃用予防や二次的合併症の予防が中心となり起居動作や立ち上がり、歩行など基本的な動作の獲得が初期の目標になります。

また、日常生活への関わりが遅くなり、長期的な介助で日常生活を行っていくことに慣れてしまい、臥床する時間が長くなるという負の循環がおこってきてしまう可能性があると考えます。そのため、脳梗塞などの

中枢疾患や長期臥床による廃用では、日常生活へのかわりが必要となってきます。

例えば、日常生活のなかでもトイレ動作は一日の生活で頻度が高く、離床する機会が増加すると同時に自立することで尊厳を保つことができ、羞恥心を抱くことがなくなってきました。まずは、基本動作を獲得していくと同時にそれぞれにあった環境設定を行い介助量の軽減から図ってい



く必要があると考えています。

食事場面では、車椅子に座って食事をするのが廃用予防や日常生活の自立につながってきます。

急性期から日常生活へのアプローチは必要であり、少しでもできることを探り病棟スタッフと協力しその人の生活を立ち上げていくことが必要と考えています。

「とくに印象に残っているスタッフの名前を教えてください」とお願いしている患者さんの退院時アンケート欄で、名前の拳がったスタッフが折々に登場します。近森会の職種で5割を占める看護職からのスタートです。

支えに感謝しつつ…

▼一緒に映って下さ〜い！とお願いして…と素直に喜べる「ラッキー！」な桃子さんである。



反省することばかりです

退院時アンケートにわざわざ名前を書いていたのだから、なにはともあれ有難い。当人は、「看護師として何が出来るかといえば先輩方には全然かありません。私は患者さんやご家族とよく話をするので、それで印象に残った、と言ってもらえたのでしょうか？」と、さかんに首をかしげている。「すぐイラッとするし焦るし、患者さんとお喋りして仕事が後に残るんです。改めるべき処がどっさり…」で、反省することばかり。看護師の国家資格を得るまでにはどういった劣等生ぶりだったか自分についての弱点もスラスラ流暢で、きっとこんな飾らない感じが患者さんの共感を得るのだろう。

初心を思い出させてくれる経験

看護師の母がきっかけで看護師にはなったが、大家族で過ごした幼い日々と高校時代の実習での貴重な体験が、今日の桃子さんの在り方の基礎になっているようだ。

高校2年3年それぞれの実習で出会った患者さんとの出会いは、いまでも桃子さんに初心を思い出させてくれる強烈なものだった。とくに高3のとき。ガンの手術後で喉の渇きがひどく、回復も思わしいとはいえなかったその患者さんが、実習最後の日、「お前に元気なところを見せちゃらないかん！」と、なんと、術後初めて病室内を立って歩いてくれた。申し訳なく、また、元気な姿を見せてもらった嬉しさでいっぱいになった。そんな感動はきっと長く心に灯を点すのだろう。

実習担当のM先生も「すごくキビシくて怖かった」。が、細やかな面倒見の良さや最終日のカンファレンスで生徒を号泣させるようなインパクトを与えた。桃子さんにはそんな「恩人」との出会いがいくつもあった。

自分を支えてくれる応援団

結局、看護師の卵の期間に経験した感動の種の数々が今のガンバリの素になっているし、支えてくれてもいるようだ。さらに、楽しいコンパの出会いから付き合うことになった彼氏も、今の彼女を支えてくれている応援団のひとりでもある。国家試験を目前に挫折しそうになったときも、仕事で心の余裕を失ったときも大らかに受け止めてくれる有難い存在である。



▲「血圧も安定していますねえ、上等です！」と、朝の数字と今の数字を比べて伝える志賀看護師

緊張感いっぱいだが、そのストレスに負けないことが当面の目標。何回も同じことを先輩に教わるのに覚えられない焦りを感じつつも、就職直後に比べたら、「自分がしたことが間違っていなかった。おーちよった〜」と、喜べる回数も増えて来たのは最近のこと。

まだまだ看護師として歩き始めたばかりだが、整形外科の病棟で患者さんの回復力を確認できる幸せを、「得している！」と素直に喜べる「ラッキー！」な桃子さんである。

Chikamori ★ Kitchen 1 第2回のメニューより

石焼きビビンバ風

臨床栄養部管理栄養士
主任 内山 里美



今月1月号より、スタッフ向けの「NST」Chikamori ☆ Kitchen からおすすめレシピをご紹介しますことになりました。料理をする時間がないという方、お仕事と家事で忙しいお母さんも、どれも「はやい・うまい」料理ばかりですので、ぜひお家でも作ってみてください。また、簡単なものから難しい料理まで、要望もお待ちしております。

◆材料 (1人分)

- 【ナムル】
- ・冷凍のほうれん草 25g
 - ・もやし 25g
 - ・にんじん 15g
 - ・塩 少々
 - ・ごま 適量
 - ・ごま油 小さじ1/2
 - ・ガーリックパウダー 少々
- 【ライス】
- ・ごはん 茶わん1杯 (約1/4合)
 - ・あいびき肉 40g
 - ・酒 小さじ1/2
 - ・砂糖 小さじ1/2
 - ・しょうゆ 小さじ1/2
 - ・コチュジャン 大さじ1/2

◆作り方

- ①ほうれん草、千切りした人参、もや



石焼きビビンバ風、簡単チヂミとヨーグルトゼリーケーキ

しは全て電子レンジでチン！ただし、ほうれん草はチンした後、流水で冷やし、軽くしぼる。

②各々の野菜を全てボウルに入れて、塩、ごま油、ごま、一味、ガーリックパウダーを加えて和える。→ナムルの完成！

③ひき肉に酒、砂糖、しょうゆをまぶし、フライパンで炒める。

④ごはんをボウルに入れて②のナムルと③とコチュジャンを入れて混ぜ合わせる。

⑤フライパンにごま油をしき、④を入れて、こんがり焼いたら出来上がり。



オルソ 4 階病棟看護師
高芝 真智子

家族三人で行ったディズニーの思い出です。娘の杏も連れての初旅行、ミニーと写真が撮りたくて長い列に並びました。

やっと自分たちの番がきて撮影になりましたがなぜか大号泣の杏……。

おかしいやらびっくりやら、ミ



夫の潤さん

ニーちゃんたちも必死で笑わせようとしてくれましたが……。

この旅一番の思い出となりました。

職員旅行★マカオ



宿泊場所のホテル、グランド・リスボアの前で。このホテルはマカオの中心部に建ち、258メートルの高さを誇り、マカオの新しいトレードマークの一つとなっています。

編集室通信

◆年月が過ぎるスピードが年々早くなっているように感じます。今年もあっという間の1年になるかもしれませんが、一日一日を大切に笑顔で頑張りたいと思います。

毎年年末に1年のつけのように急性胃腸炎を発症します。今年は、暴飲暴食しないようしっかり体調管理もしてお酒と付き合いませう☆ (陽)

図書室便り (2009年11月受入分)

- ・ Surgical Exposures In Orthopaedics The Anatomic Approach Fourth Edition / Stanley Hoppenfeld(他著)
- ・ OS NOW Instruction 整形外科手術の新標準 12 下肢の鏡視下手術 基本手技の実際と応用手技のコツ / 安田和則(担当編集)
- ・ 脳腫瘍臨床病理カラーアトラス 第3版 / 日本脳腫瘍病理学会(編集)
- ・ WHO 分類第4版による白血病・リンパ系腫瘍の病態学 / 押味和夫(監修)
- ・ 病院勤務医の技術 ホスピタリスト養成講座 / シルビア・C・マッキーン(他著)、福井次矢(監訳)
- ・ 講座*医療経済・政策学第6巻 医療制度改革の国際比較 / 田中滋(他編著)
- ・ MBAの医療・介護経営 / 田中滋(他編著)
- ・ 今日の診断指針 第5版 / 亀山正邦(他総編集)
- ・ 医療従事者のための新型インフルエンザA(H1N1)対策実践ガイド / 日本医師会(監修)

《寄贈本》

- ・ 成年後見ハンドブック / 特定非営利活動法人あさがお(編集)
- ・ 今日の治療指針 私はどう治療している 2009 / 山口徹(他総編集)
- ・ 二重洗脳 依存症の謎を解く / 磯村毅

《別冊・増刊号》

- ・ 別冊・医学のあゆみ Surviving Spesis Campaign Guidelines - 重症敗血症の理解のために / 織田成人(編集)
- ・ 臨床と微生物 36巻増刊号 薬剤感受性測定法と耐性菌 / 小林芳夫(他編集)
- ・ 臨床スポーツ医学 26巻臨時増刊号 スポーツ栄養・食事ガイド 競技力向上とコンディショニングのためのスポーツ栄養学 / 臨床スポーツ医学編集委員会(編集)
- ・ 泌尿器ケア 2009年冬季増刊 これ1冊で大丈夫!泌尿器科のがん化学療法・薬物療法 レジメン・副作用・ケア完全ガイド / 篠原信雄(監修)

2009年 11月の診療数

近森会グループ	
外来患者数	16,743人
新入院患者数	731人
退院患者数	737人
近森病院	
平均在院日数	16.65日
地域医療支援病院紹介率	80.27%
救急車搬入件数	380件
うち入院件数	186件
手術件数	387件
うち手術室実施	246件
→うち全身麻酔件数	150件

企画情報室